特別研修

月例研究会　議事録（　１１　月）

２００９年度第　７　回

報告題名：農食品の安全性確保に関する管理体系強化方案の研究	
報告者：徐杭希 （**所属分野**）　農業経営経済学分野	**日時**　11 月 26 日　15 時から 17 時 **場所**　第八講義室
座長　柳瀬	**議事録担当者**　渡邊

出席者

安江、米倉、川島、工藤、伊藤、齋藤、澁谷、水澤、小山田、韓、デッフィ、松井、スチン、ソ、八木、柳瀬、宮本、カルナ、マヌルン、安部、神浦、佐々木、福田、水木、宮里、渡邊、北脇、遠藤、月僧、齊藤、中村、山下

報告要旨

本研究は、農食品安全性確保に関する管理体系強化方案の研究である。生活水準の向上に伴う安全・安心な農食品を求める消費者は増えつつあり、農食品の生産・加工段階は勿論、流通過程においても徹底した安全性の確保が重要である。

まず、韓・日の農食品安全管理体系の現況と関連法を分析し、問題点や課題などを明らかにする。その上で、消費者に安全・安心な高品質の農食品を供給するための安全システムの体系的な管理、消費者の信頼性の確保およびリスクの管理方案などを検討する。今回の報告では韓国と日本の農食品安全性管理機構と法律を比較しながら、事例分析として BSE 問題に関する日本政府の対応(リスク評価、管理、コミュニケーション)ついて検討する。

質疑・応答

柳瀬：今回、韓国･日本･米国･スウェーデン 4 つの国の食品安全性に関する行政の管理体系の比較を行っているが、他の国の状況はどうなのか？

徐：他の国では、ドイツとフィンランドが一元化システムを行っている。日本と同じように 2 つのシステムを行っている国は、カナダ・イギリス･フランス。多元化している国は韓国とアメリカである。

柳瀬：リスク管理を一元化するメリットを教えて欲しい。

徐：リスク管理もだがリスクコミュニケーションも一元化する必要がある。なぜならリスク管理が分かれていると、リスクコミュニケーションも 2～3 に分けてしなくてはならず、食品に関することなので生産から流通までコミュニケーションを一元化しなくては政府にとっても負担になると思う。財政やかかる時間を考えるとひとつの省で行なった方が良い。ただし透明性の問題もあるので、韓国で行なわれているのは食品安全政策委員会に政府の委員が 8 人と民間委員 10 人で行なっているが、管理も評価も大切なので管理機関だけでも一元化すればよいと思う。

澁谷：資料中の EU の BSE ステータス評価について、私が持っている資料では OIE(国債獣疫事務局)でのサーベランス評価で日本はひっかかっているが、その点について調べているか？

徐：EU の BSE に対するステータス評価では、2000 年 11 月に日本は安全であるとの評価を受けているが、これとは別に OIE は勧告を出しているということですか？

澁谷：そうです。そしてそのサーベランス評価で日本は危ないという評価を受けていたが、日本の農林水産省がこれに反発し評価そのものを受け取らなかった経緯がある。しかし結局千葉県で BSE が発生したという事実があるので、まだ徐さんの分析が足りないと思う。

徐：今回 BSE 問題を取り上げているが、この研究は BSE 問題そのものの事例研究ではなく、BSE 問題を通して政府はどのようなリスク評価を行なうべきなのか、消費者とのリスクコミュニケーションはどうすべきなのか、良い評価のためには適切な管理、そのための一元化が必要なのではないかという部分に焦点を当てて本研究を行なっている。